

檜細工

歴史

檜細工の始まりは、約400年前、尾口村深瀬(現・白山市深瀬)を訪れた旅の僧が農民に檜笠の製法を伝授したことと言われている。当時、村では人口が増加しているにもかかわらず、田畑にできる土地が少なく、檜笠作りは農民の貴重な副収入になったと伝えられている。

檜笠は江戸時代中期には農耕用などに広く使用され、村の重要な産物になっていた。昭和6年(1931)には檜笠購買組合(のちの檜笠工業協同組合)を設立して共同作業所を建て、檜笠の生産も年々増加し、アメリカ向けの輸出用の色帽子も生産するようになった。網代(あじろ)天井や、各種のカゴ、花立などの民芸品にも応用されるようになった。

特色

檜細工は、原料のヒノキを薄く細い経木にしたもの(ヒンナまたはヘギ)を編んで作る。ヒンナ作りは、機械化により大量生産が可能となったが、ヒンナを編む作業は今も手作業で、熟練を要するものである。

現在は、檜笠のほかに、ナタ入れ、おぼけ(背負いかご)、かご、屑入れ、花立などの製品が作られている。また、いろいろの模様を編み込んだ網代天井は、尾口村(現・白山市)の民俗資料館で見ることができ、金沢市や小松市内の寺の天井に使われているところがある。



丝柏工艺

历史和特色

丝柏工艺大约开始于400年前，据说是由游经尾口村深瀬(现白山市深瀬)僧侣将檜笠的制作方法传授给了当地的农民。在当时，编制檜笠成为村民们的重要的副业收入。

檜笠在江户时代中期被广泛利用于农耕等，并成为当地村庄里重要的产品。

丝柏工艺就是将原材料丝柏木削成又薄又细的木片后编制成物品。

现在，除了檜笠之外，还编制如放砍刀的容器、背篓、篓筐、废纸筐、插花筒等制品。在尾口村(现白山市)的民俗资料馆中可以看到编有各种图案的网代天花板。另外，金泽市和小松市内的一部分寺庙的天花板也用了丝柏工艺。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要产品名)	笠、おぼけ、かご、花器(斗笠、背篓、篓筐、插花用器皿)
主な生産者(主要生产者)	檜笠生産グループ(檜笠生産集团) 〒920-2152 白山市明光4丁目83(白山市明光4丁目83) TEL (076)273-1723